監視付き変換ソフト

KDauto_trans (DTP2XDW)

Kernel Computer System
カーネルコンピュータシステム株式会社

本社:パッケージ販売部
〒221-0056
横浜市神奈川区金港町 6-3 横浜金港町ビル
TEL:045-442-0500　FAX:045-442-0501
URL:https://www.kernelcomputer.co.jp

【概要】

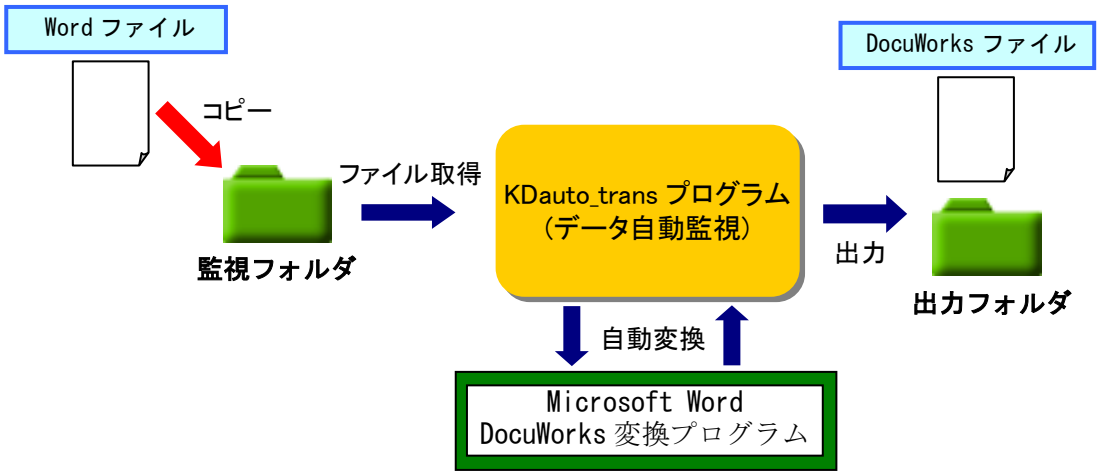
KDauto_trans(DTP2XDW)は、KDauto_trans に DTP ファイルを DocuWorks ファイルに変換する機能を追加した製品となります。

KDauto_trans(DTP2XDW)は監視フォルダを監視して監視フォルダ内にあるファイルを対応アプリケーションと「DocuWorks 変換プログラム」を使用して変換を行います。変換により作成されたファイルは出力フォルダへ出力されます。

出力フォルダへ出力されたファイルに対して印刷(標準か別売)、FTP 転送を行うことができます。

これら変換、出力、印刷、FTP 転送の設定は監視フォルダ毎に指定することができます。

例. Word ファイルを DocuWorks ファイルに変換します。



【特長】

1. DTP ファイルを DocuWorks ファイルに変換することが可能です。富士フイルムビジネスイノベーション社製品の**DocuWorks 6～9.1(8.0.3 を除く)**と DTP ファイルを読み込めるソフトが別途必要になります。(例えば WORD ファイルなら Microsoft Office Word という具合になります。)
   変換可能な DTP ファイルの拡張子と変換に必要なソフトのバージョンは次の通りです。
   下記以外の DTP ファイルは変換不可です。(変換エラーになります。)

DTP ファイル	バージョン	拡張子
Microsoft Office Word データ	Microsoft Office Word ※1 XP/2003/2007/2010/2013/2016/2019/2021/2024/365	doc, rtf, dot, txt, docx, dotx, docm, dotm
Microsoft Office Excel データ	Microsoft Office Excel ※1 XP/2003/2007/2010/2013/2016/2019/2021/2024/365	xls, xlw, xjs, csv, xlt, xlsx, xltx, xlsm, xltm
Microsoft Office PowerPoint データ	Microsoft Office PowerPoint ※1 XP/2003/2007/2010/2013/2016/2019/2021/2024/365	ppt, pps, pot, pptx, ppsx, potx, pptm, ppsm, potm
Microsoft Office Project データ	Microsoft Office Project 2002/2003/2007/2010/2013/2016/2019	mpp, mpt
Microsoft Office Visio データ	Microsoft Office Visio 2002/2003/2007/2010/2013/2016/2019/2021/2024	vsd, vss, vst, vsdx, vsdm
PDF データ	内蔵変換ツール※2 または関連付け PDF ビューア※3	pdf
DocuWorks データ	DocuWorks 6/7/8(8.0.3 を除く)/9/9.1	xct
html, xml データ	インターネット標準ブラウザ※4	htm, html, xml

   ※1 Microsoft 365 の対応バージョンは弊社ホームページをご覧ください。
   ※2 内蔵変換ツールとは弊社 PDF 変換ツールのことになります。

   ※3 関連付け PDF ビューアとは外部の PDF Viewer のことになります。確認済み PDF Viewer は以下の通りです。

製品名	バージョン	備考
PDF Viewer for Windows 7	1.0.320	
Sumatra PDF	1.7	A1 サイズ以上は正常に変換できません

   変換結果につきましては、ご利用の PDF ビューアの仕様に依存します。
   変換でご利用になる PDF ビューアはデフォルトの PDF ビューアに設定されている必要があります。
   ご利用になる PDF ビューアは以下の条件のどちらかを満たしている必要があります。
   ・エクスプローラで PDF ファイルを選択し、右ボタンのポップアップメニューで印刷が可能であること。
   ・PDF ファイルを開き、[Ctrl+P], [Alt+F], [Alt+P]等で印刷ダイアログの表示が可能であること。
   ご利用の PDF ビューアの使用許諾やライセンスなどはそれに従う必要があります。

   ※4 確認済のブラウザは以下の通りです。

製品名	バージョン	備考
Internet Explorer	7/8/9/10/11	

   変換結果につきましては、ご利用のブラウザの仕様に依存します。
   変換でご利用になるブラウザは htm, html, xml ファイルに関連付けされている必要があります。
   変換でご利用になるブラウザは起動されていない状態である必要があります。

2. DocuWorks の PDF 読み込み機能を使用して DocuWorks ファイルに変換することが可能です。
   変換可能な PDF ファイルは、富士フイルムビジネスイノベーションジャパン社の複写機のスキャン機能および CentreWare FlowService で作成されたイメージの PDF ファイルまたは高圧縮の PDF ファイルとなります。それ以外の PDF ファイルはエラーとなります。
3. PDF ファイルからイメージ抽出を行い、そのイメージを変換して出力することが可能です。
   イメージが無いページは白紙ページになります。一部分のみイメージの場合はイメージの部分のみ出力されます。
   PDF ファイルが PDF2.0 の範囲を超える、アプリケーション独自の拡張が使用されている場合はイメージを抽出することはできません。
   JPXDecode(JPEG2000)のうち、拡張機能が使用されている場合は変換できません。
   PDF ビューアを使用して PDF ファイルを変換する場合と PDF ファイルからイメージを抽出する場合での違いは以下のようになります。

PDF ファイルの内容	PDF ビューアから変換	イメージ抽出から変換
ベクター(文字や罫線など)データ	変換可	白紙
ラスター(イメージ)データ	変換可	変換可
ベクターラスター混在データ	変換可	ラスター部分のみ変換可
PDF ビューア	必要	不必要
PDF 上で回転・歪みのあるデータ	見た目通りに変換	見た目と異なる場合がある
カラーイメージデータをモノクロで出力する場合のディザ処理	パターンディザ	ディザなし、誤差拡散、 パターンディザから選択

4. パスワードによるセキュリティが掛かっている PDF ファイルを変換する場合は、事前に解除するパスワードを設定しておくことで変換が可能になります。
5. 複数の DTP ファイルを DocuWorks ファイルに変換してひとつのファイルにまとめることが可能です。
   まとめたファイルはバインダーファイルかマルチページの DocuWorks ファイルで出力することができます。
6. DocuWorks ファイルにパスワードやファイルの編集を制限するセキュリティを掛けることが可能です。

7. 変換元のDTPファイルをDocuWorksファイルに添付することが可能です。
8. 自己解凍形式のDocuWorksファイルを同時に出力することが可能です。(**DocuWorks9以降は不可**)
9. 監視ディレクトリ毎にDocuWorksファイルの変換方法を指定することが可能です。
10. 監視ディレクトリを最大200個まで指定できます。
監視ディレクトリ内のファイルは日付の古い順かファイル名の昇順かコピー順でピックアップされます。
11. 監視ディレクトリはローカルフォルダと共有フォルダのどちらでも指定することが可能です。
共有フォルダは読み書きが許可されている必要があります。
12. 監視ディレクトリ毎に優先順位の設定が可能です。
優先順位の高い監視ディレクトリの処理を優先して行います。
処理している監視ディレクトリよりも優先順位の高い監視ディレクトリにファイルがコピーされると処理中のファイルの終了後に優先順位の高い監視ディレクトリのファイルを割り込ませます。優先順位の高い監視ディレクトリ内のファイルをすべて処理し終わると割り込まれた監視ディレクトリの処理を継続して行います。
使用例:通常使用する監視ディレクトリより優先度の高い監視ディレクトリを作成しておくことで通常処理に
割り込んで処理を行うことができます。
13. 監視ディレクトリ毎に監視開始時間、監視終了時間、監視有効、監視無効の設定が可能です。
監視ディレクトリの監視有効、監視無効の設定はKDauto_trans実行中でも変更することが可能です。(実行中に監視無効に変更した場合は、変更前にピックアップされていたファイルについては変換処理を行います。)
14. 監視ディレクトリ以下のディレクトリにあるファイルを処理することが可能です。処理されたファイルは指定された出力先に、監視ディレクトリ以下のディレクトリ構成と同じディレクトリ構成を作成してそこに出力します。
15. 監視ディレクトリ毎に任意の出力先を指定することが可能です。
16. 出力先はローカルフォルダと共有フォルダのどちらでも指定することが可能です。
共有フォルダは読み書きが許可されている必要があります。
17. 処理後の出力ファイル名を指定することができます。
監視ディレクトリにコピーされたファイルと同名＋指定拡張子、日時(YYYYMMDDHHMMSS)＋指定拡張子、日付(YYYYMMDD)＋指定拡張子、日付(YYMMDD)＋指定拡張子、時間(HHMMSS)＋指定拡張子、監視ディレクトリにコピーされたファイルと同名＋日時、日付、時間のどれかと組み合わせ＋指定拡張子から選択できます。監視ディレクトリにコピーされたファイルと同名と日時、日付、時間の間はアンダーバーかハイフンで連結します。
18. 変換処理の履歴を保存しておく履歴ファイルの生成が出来ます。実行時間や変換結果などの履歴情報の確認ができます。XMLフォーマットの履歴ファイルを作成することもできます。
19. 変換処理の内容をメールで送信することも可能です。変換処理がNGの時にのみメールを送信したり、常に結果をメール送信したりすることができます。変換処理がNGの場合は変換元ファイルをメールに添付することができます。
20. 処理後の出力ファイルを印刷することが可能です。プリンタドライバ経由(データ変換は行わない)で印刷を行います。処理後の出力ファイルが出力先プリンタで出力可能なフォーマットになっている必要があります。
弊社の印刷関連製品を使用して印刷することも可能です。(印刷関連製品を組み合わせ可能かどうかは弊社までお問い合わせください。(**別売**))
弊社以外の印刷関連製品を使用して印刷することも可能です。(例えばlpr.exeなど)
使用できる印刷プログラムはコマンドプロンプト上からコマンドラインで実行可能なこと、コマンドラインの形式が「出力プログラム名 オプション 出力ファイル名」であることが条件となります。画面操作が必要なプログラムは使用できません。
21. 弊社のKDコンバートシリーズ(別売)を使用してDTPファイルからDocuWorksファイル変換以外の変換を自動処理することが可能です。殆どのKDコンバートシリーズが組み合わせ可能ですが、組み合わせることが出来ないものもあります。
(購入を考えているKDコンバートシリーズまたは購入済みのKDコンバートシリーズが組み合わせ可能かどうかは弊社までお問い合わせください。)
22. 弊社のKDコンバートシリーズ(別売)を使用してDocuWorksファイルに変換する場合は、DTPファイルと一緒にDocuWorksファイルにまとめて出力することができます。
(購入を考えているKDコンバートシリーズまたは購入済みのKDコンバートシリーズが組み合わせ可能かどうかは弊社までお問い合わせください。)
23. 弊社のKDコンバートシリーズ(別売)を使用して対になる2つの新旧ファイルを比較して比較結果を出力することが可能です。比較可能KDコンバートシリーズはHPMGHP, XDWMGXDWです。
24. 弊社のKDコンバートシリーズ(別売)を使用して複数の図面サイズのファイルを指定図面サイズにレイアウトして出力することが可能です。レイアウト可能KDコンバートシリーズはHPLAYHP, RSCMP3RSです。
25. 弊社のKDコンバートシリーズ(別売)を使用して大判サイズのデータを定型または任意のサイズに分割することが可能です。分割可能KDコンバートシリーズはRSDV3RS, RSDV4RS, RSDV3PSTです。
26. 弊社のKDコンバートシリーズ(別売)を使用して変換元データの情報を変換と同時に出力することが可能です。
情報出力可能KDコンバートシリーズはラスター変換プログラム(RS**)です。
ラスター変換プログラムではExif情報を出力します。変換元データにこれらの情報が無い場合は変換エラーとなります。
27. 弊社のKDコンバートシリーズ(別売)で使用する設定ファイルを変換ファイルに合わせて自動的に選択して変換することが可能です。変換前に任意に指定したディレクトリに、変換ファイルと同名の設定ファイル(拡張子は任意)を作成しておく必要があります。設定ファイルが存在しない場合は変換エラーとなります。
28. 監視ディレクトリにフォーマットの違うファイルがあってもフォーマットを自動認識することができます。
フォーマット認識はファイルの拡張子で行います。拡張子はフォーマット毎に最大8個まで指定できます。
フォーマット毎に使用するデータ変換プログラムと出力先のディレクトリを指定することができます。
29. フォーマットの自動認識(25.)を行う場合に、指定外の拡張子を持つファイルをエラーにするか無視するかを選択できます。無視にした場合は、そのファイルは監視ディレクトリから削除されません。
30. KDauto_trans(DTP2XDW)の環境設定はGUI画面から設定を行います。

KD コンバートシリーズとの組み合わせ例

1. KDraster コンバート(ベクター/ラスター)を購入して組み合わせることによってDXF/DWG/HP-GL/OFI 等のファイルをTIFF 等のラスターファイルに変換することが可能になります。
2. KDraster コンバート(ラスター/ラスター)を購入して組み合わせることによって TIFF, JPEG, BITMAP 等のラスターファイルを TIFF, JPEG, BITMAP 等のファイルに変換することが可能になります。
3. KDprintout for driver(プリンタドライバ経由の印刷)を購入して組み合わせることによって、DXF/DWG/HP-GL/HP-GL2/OFI/Raster ファイルを任意のプリンタへ印刷することが可能になります。

【機能一覧】

KDauto_trans(DTP2XDW)の機能一覧です。

機能	コマンドライン、 常駐プログラム起動	サービス起動
DTP ファイル変換処理(※1)	○	×
PDF ファイルからイメージの抽出(※1, ※2)	○	×
監視ディレクトリ最大数	200 個	200 個
監視ディレクトリの優先順位	○	○
監視ディレクトリの開始終了	○	○
監視ディレクトリの有効無効	○	○
階層処理	○	○
出力ファイル名(※3)	○	○
履歴の作成	○	○
メール送信	○	○
プリントマネージャで印刷(※4)	○	○
任意プログラムで印刷(※5)	○	○(※6)
KD コンバートシリーズで変換(※5)	○	○(※6)
複数ファイル処理(※7)	○	○(※6)
比較処理(※8)	○	○
レイアウト処理(※9)	○	○
分割処理(※10)	○	○
ファイル情報出力(※11)	○	○
FTP 転送	○	○
環境設定を GUI で行う	○	○

※1: DocuWorks 6～DocuWorks 9.1(DocuWorks8.0.3 は除く)がインストールされている必要があります。

※2: PDF2.0 の範囲を超える、アプリケーション独自の拡張が使用されている場合はイメージ抽出することができません。

※3: 監視ディレクトリにコピーされたファイル名＋指定拡張子、監視ディレクトリにコピーされたファイル名＋日付＋指定拡張子、日付＋指定拡張子の 3 種類が指定できます。

※4: 出力するプリンタが印刷可能なフォーマットに KD コンバートシリーズの変換処理で変換する必要があります。

※5: 別途 KD コンバートシリーズを購入する必要があります。

※6: DTP ファイルを変換・印刷する場合はサービス起動を行えません。

※7: DTP ファイルをバインダーファイルまたは DocuWorks ファイルにまとめる以外の処理を行う場合は、別途 KD コンバートシリーズを購入する必要があります。

※8: HP-GL 同士, HP-GL/2 同士, DocuWorks 同士のファイルが比較可能です。
別途 HPMGHP(HP-GL 同士, HP-GL/2 同士), XDWMGXDW(DocuWorks 同士)を購入する必要があります。

※9: HP-GL, HP-GL/2, ラスターファイルがレイアウト可能です。
別途 HPLAYHP(HP-GL, HP-GL/2), RSCMP3RS(ラスター)を購入する必要があります。

※10:ラスターファイルが分割可能です。
別途 RSDV3RS, RSDV4RS, RSDV3PST を購入する必要があります。

※11:ラスターファイルが可能です。
別途ラスター変換プログラム(RS**)を購入する必要があります。

【制限事項】

- Windows の OS を長時間(数ヶ月単位)再起動せずに使用すると環境により Windows の動作が不安定になる場合があります。
  これは、弊社アプリケーションのみの問題ではなく、Windows を含む、利用される全てのソフト・ドライバの複合要因であり発生した場合、原因の特定及び回避は全てのアプリケーションが関係している関係で、現状では不可能です。
  長期間連続運用を行う場合、上記の問題が発生する事がありますので定期的な Windows の再起動を奨励いたします。
- DocuWorks9 で追加された機能を使用して変換を行うことはできません。
- Office データ変換処理に使用するアプリケーションは、Office 2019, Office 2021, Office 2024, Microsoft 365, Visio 2019, Visio 2021, Visio 2024, Project 2019 は 64 ビットアプリケーションに対応しています。それら以外は 32 ビットアプリケーションのみ対応しています。
- 内蔵変換ツールを使用して PDF ファイルを変換する場合は次の制限があります。
  (1) PDF2.0 の範囲を超える、アプリケーション独自の機能が使用された PDF ファイルは変換できません。
  (2) ページの縦か横が 10m を超える PDF は変換できません。
  (3) 外観の情報を持たない一部の注釈が変換されません。
  (4) ブレンドモードに対応していないため、図形が透過されない場合があります。
  (5) 一部のシェーディングが正しく変換されません。
  (6) JavaScript を利用した機能は有効になりません。
  (7) 「印刷されない」設定のレイヤも印刷されます。
  (8) PDF で指定されたフォントがインストールされていない場合に、一部の文字が正しく変換されないことがあります。
  (9) 幅又は高さが 32767 画素を超える画像は正常に印刷されません。
  (10) JPXDecode(JPEG 2000)のうち拡張機能が使用されているイメージは PDF から抽出できません。
  使用されている色空間によって、抽出後に色合いが変わることがあります。
- 関連付け PDF ビューアを使用して PDF ファイルを変換する場合は、使用する PDF ビューアの使用許諾やライセンスに準拠する必要があります。
- PDF ファイルの図形の中で極細線のような細い線を使用している場合、ラスター変換後にその線が設定解像度によって(1ドットに満たない場合など)は消えてしまうことがあります。
- DocuWorks の PDF 読み込み機能を使用する場合は、富士フイルムビジネスイノベーションジャパン社の複写機のスキャン機能および CentreWare FlowService で作成されたイメージの PDF ファイルまたは高圧縮の PDF ファイルが変換可能となります。
- PDF ファイルからイメージを抽出する場合は JPXDecode(JPEG2000)のうち拡張機能が使用されているイメージは抽出できません。
  PDF2.0 の範囲を超える、アプリケーション独自の拡張が使用されている PDF からはイメージを抽出できません。
- PDF 上で回転・歪みを使用して表示しているイメージを抽出した場合、抽出したイメージは PDF 上の表示と見た目が異なる場合があります。
- タイリングパターンの一部として表示されているイメージは抽出できません。
- 使用されている色空間によって、抽出後に色合いが変わることがあります。
- DocuWorks 入れ物(xct)を変換するには、DocuWorks 9.0.1 以降が必要です。
- DTP ファイルを変換時にダイアログが表示されてキー入力待ちになり処理が停止する場合があります。
  このような状態になった場合はダイアログをキャンセルして閉じようとしますが、キャンセルできずにこの状態のまま処理が停止したままになることがあります。また、ダイアログがキャンセルできても変換そのものはエラーになる場合があります。
- セキュリティの設定されているファイルは変換できません。

- DocuWorks7.0 以上がインストールされている場合は最大用紙サイズが 2A0 ですので、変換元の DTP ファイルの用紙サイズが 2A0 より大きい場合は 2A0 に縮小されて出力されます。
- 関連付け PDF ビューアを利用して PDF ファイルを DocuWorks ファイルに変換した場合、文字列はイメージデータに変換されることがあります。文字列がイメージデータに変換されるため DocuWorks ファイルに変換後、文字列の検索はできません。
- KDauto_trans(DTP2XDW)を実行中は DocuWorks Viewer と Desk を起動しないでください。
  これらを起動すると正常に変換されない場合があります。
  また、その他の DocuWorks を操作(作成、加工)するアプリケーションは起動しないでください。
  例:KDauto_trans(DTP2XDW)で出力した DocuWorks ファイルを別のアプリケーションを使用して
  アノテーションを貼り付けて最終的な DocuWorks ファイルとするような構成を構築するとします。
  この場合、KDauto_trans(DTP2XDW)とアノテーションを貼り付ける別のアプリケーションは非同期で
  動作していますので、KDauto_trans(DTP2XDW)の DocuWorks 変換とアノテーションを貼り付ける処理
  で同時に DocuWorks を使用する状態が発生し、DocuWorks が動作不良を起こして正常に変換できない
  場合があります。
- KDraster Convert, KDcad Convert, KDprint Convert を使用して変換する場合、一部のオプションは
  使用できなくなります。使用できなくなるオプションはファイルをまとめて処理するようなオプションで、-BATCH、-MERGE 等です。

【自動起動】

1. スタートアップに登録することでログイン後に自動起動することができます。
2. サービスに登録することでマシン起動後、ログオフ状態で自動起動することができます。
   (DTP ファイル(Word, Excel, PDF など)を変換するような場合には使用できません)
3. サービス登録以外の方法でログオフ状態の自動起動には対応していません。

【対応 OS】

Windows 7

Windows 8

Windows 8.1

Windows 10

Windows 11

Windows Server 2008

Windows Server 2008 R2

Windows Server 2012

Windows Server 2012 R2

Windows Server 2016

Windows Server 2019

Windows Server 2022

【価格】

KDauto_trans(DTP2XDW)　　:45 万円(税抜き)